

福山歴史ロマン花めぐり

まず福山駅にお目見え

JR福山駅の改札前に 六日、生け花がお目見えした。雅な雰囲気を感じ



福山駅構内にお目見えした生け花

出す生け花に駅利用者はしばし足を止めて見入る姿も見られた。

今月十日に福山市鞆町の沼名前神社能舞台で行われる「鞆の浦 名舞台 雅の世界」の関連行事「福山歴史ロマン 花めぐり」プロジェクト（大島泰子代表）の一環。

プロジェクトでは明王院（草戸町）や廉塾（神辺町）、吉備津神社（新市町）、阿伏鬼観音（沼限町）、太田家住宅（鞆町）といった市内の史跡や文化施設など二十三ヶ所を花で飾り、福山の歴史文化に触れてもらおうという試み。八日から十一日まで。

ひと足早い飾り付けとなった福山駅では午前九時過ぎから、いけばな「閑瀧流」の小川閑瀧家元（62）が制作にとりかかった。「無限」と題した作品は約一時間の作業で完成。作業の間、駅を行き交う市民は足を止め

て小川家元の作業を見詰める光景も見られた。

高さ約三層の作品は松の古木や生木を土台に秋の植物のツルウメモドキなどをあしらった。空間の広がりや無限の宇宙を表現したり、古木と生きた木を組み合わせることで過去と現在を表現した。

小川家元は「旅行者が眺めてホッとするなどいろいろな思いを寄せてもらえれば」と話している。プロジェクトの大島代表は「福山の注目スポットをせひめぐってほしい」と話している。

十日の能舞台は午前十時から地元幼稚園、小学生、愛好者らの発表があり、午後二時から「能楽への道しるべ」と題し、能舞「西王母」の披露などがある。入場無料。

問い合わせは鞆の浦演能実行委員会（福山市観光課内、☎〇八四・九二八・一〇四三）まで。